

東京で100年以上続く54店舗の「老舗」の旦那衆の集まりです



東都のれん會

江戸・東京散歩 < 3 >

銀座・日本橋・赤坂・麻布・忠臣蔵 編

海老屋 更科堀井	江戸屋 笹乃雪	越後屋 駒形どぎ	榮太樓 言問だんご	梅園 黒江屋	東都のれん會	つぶげや 木村屋漆店	伊場川 神田川	いせ辰 神田川	いせ源 大野屋	天野屋 大坂家
豊島屋本店	ちんや	長命寺梅もち	竹葉亭	ちま味噌	玉木屋	手正屋漆店	精養軒	泉屋博長衛	志乃多壽司	さるめ
豆源	松崎煎餅	前川	弁松	船橋屋	羽二重團子	梅原亭	仁にんべん	中清	鳥安	とらね
學橋右之吉		龍老館東京	蓮王庵	吉徳	山本山	山本海苔店	や姥どは	守田松慶堂	やげん堀	室町砂場
										室本師助

令和二年四月

江戸から東京 三代・百年

Edo Tokyo Brand

江戸・東京散歩 <銀座・京橋>

今回の江戸・東京散歩は、京橋～銀座。有名ブランドショップやデパートが軒を連ねる、名実ともに「日本一おしゃれな繁華街」を歩きます。銀座を南北に走る中央通りは、江戸の昔のメインストリート「東海道」。着物に、グルメに、生活関連グッズ……。老舗の職種のバラエティも多彩で、ほんとに充実した散歩になりますよ！

■江戸歌舞伎発祥の地碑・京橋大根河岸青物市場跡碑

京橋駅からだったら、中央通りを銀座方面に向かって歩いて右手。ちょうど高速道路の高架にさしかかる手前の歩道上に、「江戸歌舞伎発祥之地」の石碑が建っています。「二月十五日より中橋に於（おい）て、中村勘三郎歌舞伎芝居始めて興行す・・・」江戸歌舞伎は中村座の創始者でもある勘三郎が、中橋に常打ちの芝居小屋を旗揚げし、大評判をとったことから、大きく発展したのです。

その中橋というのは、日本橋と京橋の中間にかかっていた橋なのですが、いまはありません。かつて芝居小屋が建ち並んでいた頃の面影は、この石碑だけというわけです。

なお、「江戸歌舞伎発祥之地」の碑の奥には「京橋大根河岸青物市場跡碑」もあるので、こちらもお見逃しなく。延宝3年（1675）、ここに誕生した青物市場は、昭和10年、築地に移転してなくなりました。



(左画像) 江戸歌舞伎発祥之地。高速道路に視線が奪われて目立たないのが残念ですが、横にある大きな桜の木が春は花びらを散らし、夏には木陰をつくって目印になってくれています。

(右画像) 京橋大根河岸青物市場跡碑。

■警察博物館

中央通りをはさんで、「江戸歌舞伎発祥之地」碑の前に建つのが、警察博物館。「警察のお世話にはなりたくない」と思っている人が多いのでしょうか、ここなら大丈夫。こわもてのおまわりさんではなく、きれいなお姉さんが迎えてくれます。

ここは、警視庁が持つ1000点あまりの史料を展示する博物館。警視庁は、現在は、東京都公安委員会の管理のもと、9つの部と警察学校、10の方面本部や101の警察署などにより構成されていますが、その歴史は、とりもなおさず明治7年に誕生した日本の警察の歴史でもあるわけです。意外（?!）にも、なかなか楽しめました。

玄関を入った1階は、白バイの前身である「赤バイ」や、警視庁が所有したヘリコプターの1号機などがドーンと展示され、2階は警察の歴史史料。3階は、明治以来の制服の展示や事件・事故の記録。そして、4階には音楽隊のコーナーなども。たまにはこんな異色の散歩スポットを訪れてみるのもいいのでは？ 入場は無料です。



(左画像) 警察博物館の入口。月曜日と年末年始は休館です。

(右画像) 1階に展示されている「赤バイ」。昔は白バイではなく、赤かったなんてビックリ。現在、東京都の警官は約42000人。約950台の白バイ、約1100台のパトカーが、東京を守っているそうですよ

■京橋記念碑とガス灯

警察博物館の並び、銀座寄りの歩道上にあるのが「京橋記念碑」と「ガス灯」。高速道路のほとんど真下にあるので、何度、前を通っていても気がつかないという悪条件にあるんですが、これもなかなか興味深い歴史の碑です。

「京橋」という地名は、江戸時代、東海道を日本橋から出発し、京都に行くときに通る橋といったあたりからつけられた名前ですが、当時の京橋は特色のある町でした。

というのも、日本橋が大店が並ぶ富裕な繁華街だったのに対して、こちらは小さな商店が軒を連ね、職人も多く住む、庶民の活気があふれる町だったからです。江戸時代の地図を見ると、桶町、南大工町、昼町、南鍛冶町、南鞆（さや）町、南塗師（ぬし）町、炭町など、住民の仕事や生活が見えるような町名がぞろぞろ。ぜひ、図書館で江戸地図を開いてみてください。江戸散歩がもっと楽しくなりますよ。



京橋記念碑の横に立つガス灯。

ガス灯は、日本では明治5年（1872）、横浜の馬車道通りに灯ったのが最初。

銀座では、明治7年から街路沿いに設置されました。煉瓦建てる建物とガス灯は、モダン銀座の始まりであり、西洋に負けない近代文明国家日本をアピールするシンボルだったんです。

■銀座発祥の地

銀座2丁目の歩道に「銀座発祥の地」と書かれた記念碑が建っているのをご存知ですか？

「慶長十七（一六一二）年 徳川幕府、此の地に銀貨幣鑄造の銀座役所を設置し当時、町名を新両替町と称せるも、通称を銀座町と呼称せられ、明治二年ついに銀座を町名とすることに公示さる」江戸時代、ここに銀貨を鑄造する銀座役所があり、周辺には金貨や銀貨を、手数料をとって両替する店がたくさんあったので、通称を銀座と言ったというんですね。

ちなみに、銀座役所は寛政12年（1800）に日本橋蛸殻町に移転しますが、その理由は、銀座役所と両替商が近いことから、贈収賄事件まで起きるようにな癒着が広がっていったからだとか。うーむ、人間のする悪事は、今も昔も変わらないんですね。

なお、石碑にある明治2年に正式町名となった「銀座」のエリアは、現在の銀座1丁目から4丁目までの、中央通りに面した東西1区画分だけでした。つまり、現在の銀座と比べると、10分の1ほど面積。もともとの銀座は、狭かったんですね。

銀座のおもしろ話はまだまだありますが、このあとは銀座の公式ホームページ「銀座コンシェルジュ」<https://www.ginza.jp/>にお任せしましょう。銀座らしいおしゃれなお役立ちHP。おすすめです。



国銀座2丁目にある「銀座発祥の地」碑。

立派な碑なのですが、車道側に建っているので、ウィンドウ・ショッピングをしていると見過ごしちゃいます。

■数寄屋橋の碑

数寄屋橋は、その昔は、銀座から江戸城の数寄屋橋御門に続く道の途中にかけられていた橋です。現在、その跡を示すのが、数寄屋橋公園にある「数寄屋橋の碑」。碑文の「数寄屋橋此处（ここ）にありき」という字を書いたのは、劇作家・菊田一夫です。

菊田一夫を知らない若い世代のために注釈を加えると、菊田は劇作家としてさまざまな芝居を書いたのですが、なんととっても有名な作品が、昭和27年から2年間にわたって放送されたNHKラジオドラマ『君の名は』。数寄屋橋は、延々とすれ違いを続ける主人公の恋人二人が、初めて出会った運命の場所でした。このドラマは昭和28年に佐田啓二と岸恵子の主演で映画化もされ、空前の大ヒットとなりました。

かくして、数寄屋橋の名は昭和のドラマによって全国に知られるようになったわけですが、「数寄屋」という橋の名は、近くに住んでいた茶人の織田有楽斎（おだ・うらくさい / 織田信長の弟）が営んだ数寄屋造りの茶室に由来するともいわれる江戸以来の由緒ある名前です。ついでに付け加えると、有楽町という町名は「有楽斎」の邸宅があったことから名付けられたんですよ。

もう一つおまけの話を。数寄屋橋公園に隣接する泰明小学校は、北村透谷や島崎藤村の母校として知られていますが、透谷というペンネームは、「すきや」をもじってつけたものだそうです。ご存知でしたか？



「数寄屋橋の碑」の後ろには、岡本太郎の『若い時計台』と名付けられた作品も。

■銀座の路地

「銀座は路地が多い」ってことはご存知ですよね？ あなたのご最良の店も、路地の中にあたりするのかな？

路地の楽しさは、そうした「誰も知らないような」、でも、おいしくて居心地のよいお店を発見できること。それから、路地を「近道」として使う楽しさもありますよね。

そんな路地の楽しみに、もう一つ。神社めぐりはいかがでしょう。ほとんどの人が気がつかないで通り過ぎていて、ご利益満点の2本の路地をご紹介します。1本は、晴海通りに面した天賞堂の裏側にある路地で、カギ形に曲がっているのが特徴。路地のなかほどに建つ「宝童稲荷（ほうどういなり）神社」は、名前のとおり子育ての神様です。

もう一本は、銀座7丁目、すずらん通り沿いのギンザ108ビルの横にある細い細い路地。この路地の突き当たりに、縁結びにご利益のある豊岩稲荷神社があります。ここは、ほんとにわかりにくい！ それだけに、見つけたときは感激です。



（左画像）宝童稲荷神社。この路地には古いバーもあって、独特の雰囲気。



（右画像）白いお狐さまが路地の奥で出迎えてくれる豊岩稲荷神社。人が一人、やっと通れるほどの入り口。見つけられるかな？

【老舗散歩も楽しんでね】



- | | | |
|----------|--------------|----------------|
| ・ 白木屋傳兵衛 | 中央区京橋 3-9-8 | ☎ 03-3563-1771 |
| ・ 銀座越後屋 | 中央区銀座 2-6-5 | ☎ 03-3563-5691 |
| ・ 木村屋總本店 | 中央区銀座 4-5-7 | ☎ 03-3561-0091 |
| ・ 銀座松崎煎餅 | 中央区銀座 5-6-9 | ☎ 03-6264-6703 |
| ・ 安田松慶堂 | 中央区銀座 7-14-3 | ☎ 03-3542-5771 |
| ・ 竹葉亭 | 中央区銀座 8-14-7 | ☎ 03-3542-0789 |

江戸・東京散歩 <日本橋>

今回は、日本橋の南詰めを歩きます。このあたり、江戸時代は商業の中心地。すごい賑やかだったんですよ。その面影が、いまも町のあちこちに。日本橋川沿いに、兜町まで足をのぼしましょう。

■なにはともあれ、日本橋

最初に日本橋がかけられたのは、慶長8年（1603）、徳川家康が江戸幕府を開いたのと同じ年です。もちろん、その頃は木造の橋ですから、火事になったりして何度もかけかえられています。

でも、今の日本橋だって、明治44年（1911）にできているから、もう90歳以上。長さ49.1m、幅27.3mの貫禄充分の石橋で、欄干の麒麟（きりん）と獅子（しし）の青銅の像もなかなかカッコイイでしょ。

見どころは、この青銅の像と、15代将軍・徳川慶喜の筆による「日本橋」の字。橋の手前左側に「日本橋由来の碑」があるのでよく読んでね。



橋を横から眺めると、おしゃれなシルエットの橋だってことがよくわかりますよ。

■迷子はココで見つかる、一石橋

日本橋の2つ西側にかかっているのが一石橋。日本橋の花街を題材にした泉鏡花原作のお芝居『日本橋』で、「春でおぼろでご縁日…」というせりふの舞台です。とはいえ、現在の一石橋は立派なコンクリート製で、面影なし！

でも、名前の由来はおもしろいですよ。江戸時代、橋の南に呉服所の後藤縫殿助さんの家が、橋の北に金座の後藤庄三郎さんの家があったので「後藤と後藤」つまり、「5斗（と）と5斗で一石（いっこく）」。江戸っ子のシャレです。どう？あ、平成の世では、もうほとんど通じない？……。

立ち直って、ここのホントの見どころをお教えます。橋のたもとにある「満よい子（迷子）の志るべ」という石柱です。江戸時代、このあたりは大繁華街で、迷子が続出。そこで、迷子探しの伝言板として、この石柱が安政4年（1857）に建てられました。右側面に「志らする方」、左に「たづぬる方」と彫ってあって、石のへこみに迷子の特徴などを書いて貼ったのです。東京都の旧跡にも指定されている珍しいものだから、見落とさないでね。



「満よい子の志るべ」は、まわりが金網で守られていて、実はとっても見にくいのだ。残念

■郵便のはじまりはここ、日本橋郵便局

特にめだつこともない、ふつうのビルディングの郵便局ですが、ここが日本の郵便が始まった記念すべき場所。明治4年、この場所に駅通司と郵便役所が置かれて、それまで飛脚が運んでいた郵便物が、切手をはって配達されることになったのです。

とはいえ、最初は東京・大阪間だけ。最初に切手を貼ってお手紙を送った人は、ちゃんと届くかどうか心配だったでしょうね。

現在、日本では毎日7,100万通もの郵便物が届けられているんだそうですよ。



通用口の横には、日本の郵便制度をつくった前島密（ひそか）の銅像が建っています。

■東京証券取引所

日本の金融の中心、兜町にあります。「株はやらないから…」という人も、ぜひ見に行ってみて。外観も立派だけれど、内部は近未来を見るようにモダンでビックリですよ！見学は無料で、平日の9時から16時まで。1日7回、見学者向けの説明も行われています。詳しくは、東京証券取引所 <https://www.jpx.co.jp/>へ。なお、兜町から日本橋にかけては、レトロビルがいっぱい。新しく立て替えたビルも、玄関先や屋上などに、昔の建物の一部を残していたりしてなかなか楽しい散歩ができます。

また、東京証券取引所の南側にある「みずほ銀行」は、日本の銀行発祥の地。玄関脇にレリーフがありますので、探してみてくださいね。



東京証券取引所は、明治11年に、東証の前身である東京株式取引所が売買立会を開始して以来、120年以上の歴史があります。

■【ついでに文学散歩も】

■丸善

洋書に強い本屋さんといえば、丸善。創業は明治2年（1869）と明治維新直後で、翌年、今の場所に店を開きました。

創業したきっかけは、福澤諭吉さんのおすすめだったそうですよ。

創業当時から書籍のほかに文具や用品雑貨を取り扱い、日本最初の国産マッチやビール、石鹸、男性用整髪料など、当時の最先端グッズの販売も。タイプライターや万年筆などの輸入販売を手がけたのも、もちろん本邦初。

日本初の企業PR誌（『學の燈（まなびのともしび）』のちに『學鏡』）を発行して、明治34年からは内田魯庵が編集長をつとめました。

いろんな意味で、日本の近代文化の発展に寄与したお店だったんですね。

【老舗散歩も楽しんでね】



- | | | | |
|---------|-------------|--------------|----------------|
| ・黒江屋 | 中央区日本橋1-2-6 | 黒江屋国分ビル2階 | ☎ 03-3272-0948 |
| ・榮太樓總本舗 | 中央区日本橋1-2-5 | | ☎ 03-3271-7785 |
| ・榎原 | 中央区日本橋2-7-1 | 東京日本橋タワー | ☎ 03-3272-3801 |
| ・山本山 | 中央区日本橋2-5-1 | 日本橋高島屋三井ビル1階 | ☎ 03-3271-3273 |

江戸・東京散歩 <赤坂・麻布>

現在の赤坂は、大繁華街にして政界の奥座敷。でも、江戸時代はヒソソリとした場所でした。賑やかになってきたのは明治中期あたりからで、本格的に花柳界が栄えていったのは昭和になってからのことです。一方、各国の大使館が点在する高級住宅地として知られる麻布の台地も、江戸時代中期までは荒野でした。麻布十番界隈が発展を始めたのは、幕府が古川の改修工事をして水運が開けたことや、享保14年（1729）に芝にあった馬場がここに移されたことなどがきっかけのようです。

では、赤坂・麻布散歩に出発！日々変貌をとげる都会のなかに、江戸が息づいていますよ。

■豊川稲荷

江戸時代の江戸は稲荷信仰が盛んで、町内ごとにお稲荷さんがあるのはもちろん、大きな武家屋敷などにもお稲荷さんが鎮座しているのが普通でした。青山通り沿いにある豊川稲荷もその一つで、もとは名奉行として知られる大岡越前守の領地内に建てられたもの。文政11年（1828）に、現在地の向い側にあった別邸内に愛知県豊川市の「三州本山豊川稲荷」を分祀したのが始まりです。その後、明治20年に、その場所に赤坂小学校（現在は場所が移転しました）が建てられることになり、神社だけが今の場所に移転してきました。

赤坂見附から歩いて5分ほど。しかも青山通りに面していながら、境内には緑も多く、落ち着いた雰囲気。祭日以外は、参拝者が手を合わせて、静かにお参りをしています。正式名は「赤坂豊川稲荷別院」。西側の入口には茶店なども並んでいます。



（左画像）赤坂見附側から入る、東側の門。石標と石段が風情たっぷり。



（右画像）境内には鮮やかな紅白の千本のぼりが林立し、本堂前にはお狐様の像。いかにもお稲荷さんらしい雰囲気です。

■弁慶橋と紀尾井坂

地下鉄の赤坂見附駅からホテルニューオータニや赤坂プリンスホテル側へ行くときに、濠（ほり）をまたぎますね。その濠の上にかかっているのが、弁慶橋です。弁慶橋は明治22年にかけられたもので、橋の名は、弁慶小左衛門という橋の設計者の苗字をとったのだとか。あの、武蔵坊弁慶じゃないので間違えないようにね。

橋を渡ると、左手には「弁慶掘遊歩道」の案内板。この地は、加藤清正→井伊家→伏見宮家→ホテルニューオータニと所有者が変わったんですが、その一部、濠沿いの道が遊歩道となって一般に解放されているのです。一方、橋を渡ったすぐ右手には、「紀伊和歌山藩徳川家屋敷跡」の石碑があります。

ちなみに、橋の先に延びる道の名を「紀尾井坂」、このあたり一帯を「紀尾井町」というのは、江戸時代、この地にあった紀伊徳川家上屋敷、尾張徳川家の上屋敷、井伊掃部頭（かもんのかみ）中屋敷の、「紀」「尾」「井」という3つの頭文字を合わせた命名なんです。ご存知でしたか？



弁慶橋のたもとはボートハウスもあって、ボートのレンタルができます。桜や紅葉の季節は、最高のデートになりそう。

■清水谷公園

ホテルニューオータニの前を西に歩いていくと、ホテルの向い側に、思いがけないほどたくさんの緑が現れてビックリ。清水谷公園です。江戸時代、ここは井伊家と紀伊家の屋敷境となっていた谷で、紀伊家の屋敷内に湧水があったことから「清水谷」と呼ばれていました。公園は、その名前をとったものです。また、公園のある場所は、もともとは明治11年（1878）に紀尾井坂で暗殺された大久保利通公の追悼碑が建てられていたところで、敷地一帯が東京市に寄贈されたのを受けて開園されたもの。というわけで、公園の中央に、大久保利通を哀悼する、巨大な石碑が建っています。

清水谷公園は、それほど大きな面積をもつ公園ではありませんが、緑と池を配したすがすがしいエリア。園内には江戸時代の水道に使われていた玉川上水石柵なども展示されているので、お見逃しなく。



まさしく都会のオアシス。公園向いにあるカフェ（外国人率、高し！）から緑を眺めるのも一興。

■日枝神社と「猿」

日枝神社は言うまでもなく、徳川家の産土神様。6月10～16日に江戸天下祭の一つ「山王まつり」を執り行うお社としても知られています。「山王まつり」については、【江戸の歳時記の6月】を参考にさせていただく…ということで、今日は、日枝神社の神様のお使いである「猿」についてのお話を。日枝神社のおまいりで、神門や社殿の左右に「猿」が置かれているのに気がつきましたか？このお猿さんが、実は、神使「御神猿」なんです。御神猿は、古くから魔が去る——「まさる」——と呼ばれて、厄除・魔除の信仰を受け、さらに農業の守護神、繁殖・安産の神様としても信仰されてきました。また、猿が集団生活をすることや、特に子供への愛情が強いことから、夫婦円満・安産・家門繁栄にも結びつくと考えられたようです。さらに、この神社の御祭神である大山咋神は、山を主宰（うしは）き給う神徳を持った神様なので、猿と比叡の山の神の信仰とが結びついて山王の神使「御神猿」が信仰されるようになったとも伝えられています。社殿にお参りしたら、左右の御神猿さまにも手を合わせるのを忘れなく。神猿（まさる）の守土鈴や縁（猿）結びのお守りをいただいて帰ると、一層ご利益があるかもしれませんね。



日枝神社社殿。
御祭神は大山咋神（おおやまくひのかみ）。家系図のように考えると、スサノオノミコトのお孫さんに当たる神様です。

■六本木ヒルズ

六本木から麻布にかけての風景を一変させた六本木ヒルズ。各施設の紹介はほかのガイドブックやサイトにお任せして、ここでは、この地の始まりをご紹介します。

この地の歴史は、約350年前の慶安3年（1650）に、毛利元就の孫・秀元が甲斐守となった折、麻布日ヶ窪（現在の六本木6丁目）に上屋敷を建てたのが始まりです。現在の「毛利庭園」も、この屋敷に付随する大名庭園として造られたのです。この日ヶ窪屋敷は、討ち入り後の赤穂浪士10人がお預けになり、ここで切腹したというエピソードや、幼い頃の乃木希典（明治時代の陸軍大将）が過ごしたというエピソードなど、その後の歴史もなかなかドラマティック。江戸から明治にかけて、このあたりでさまざまなドラマが繰り広げられたんですね。

さて、江戸も終わり頃の元治2年（1865）、毛利屋敷は堀田相模守の拝領地となり、明治20年（1887）には増島六一郎（中央大学の創始者）の自邸に。さらに、昭和27年にはニッカウキスキーの東京工場となり、昭和52年にはテレビ朝日……と次々に持ち主が変わりました。一帯が「六本木ヒルズ」としてオープンしたのは平成15年4月。もうすっかり、東京名所になりましたね。



六本木ヒルズの森タワー。展望台や美術館をはじめ、楽しい施設がいっぱい。ショッピングやグルメを楽しんだあとは、毛利庭園の散歩も楽しんでくださいね。

【老舗散歩も楽しんでね】



- ・とらや 赤坂店 港区赤坂 4 - 9 - 22 ☎ 03 - 3408 - 2331
- ・総本家 更科堀井 港区元麻布 3 - 11 - 4 ☎ 03 - 3403 - 3401
- ・豆源 港区麻布十番 1 - 8 - 12 ☎ 03 - 3583 - 0962

江戸・東京散歩 <忠臣蔵を歩く>

今回は「忠臣蔵」でおなじみ、赤穂浪士たちが討入りの後に歩いた道をたどります。

討入りは元禄15年12月14日、新暦になおすと1703年1月30日の出来事です。『大江戸広辞苑』の「討入りの本当の日付」も見てから、でかけてね。

■散歩の出発点は、吉良邸

赤穂浪士の討入りは、主君・浅野内匠頭長矩(あさのたくみのかみながのり)が、江戸城内で吉良上野介(きらこうぜいのすけ)に斬りつけ、その罪で切腹となったことに対する仇討ちです。

前夜、吉良邸から東へ1キロほどの距離にある堀部安兵衛宅に集結した(他にも諸説あり)浪士たちは、夜明け前に吉良邸に討入り、その首を討ち取りました。現在の吉良邸跡は、なまこ堀で囲まれた小さな小さな公園。この場所に立っても敷地面積2557坪、建坪1234坪、50もの部屋数を持つ大邸宅だった、かつての吉良邸を想像することはできません。ほんとは、ここを含めた南側一帯が吉良さんのお屋敷だったんですよ。



吉良邸跡。JR 両国駅から徒歩5分ほどです。先に回向院の山門が見えてきますが、ここは吉良邸から歩き始めないとね。門前に由来を記した石碑が建っています。

■鼠小僧次郎吉のお墓もある、回向院

吉良邸前の道を西に歩くと、すぐに回向院の裏門にでます。回向院は、赤穂浪士が本懐をとげたあとの集合場所の予定だったのですが、髪をふりみだし、血にまみれた浪士たちを見て、かわりになるのを恐れた僧が入山を拒否。それで、一行は主君の墓のある泉岳寺に向かうことにしたのです。

そもそも回向院は明暦の大火でなくなった10万人ともいわれる犠牲者を弔うために建てられたお寺。戯作者&浮世絵師の山東京伝など江戸の有名人のお墓があり、勸進相撲が行われたことでも知られています。

でも、なにより回向院を有名にしているのが、「鼠小僧次郎吉」のお墓。いつの頃からか、墓石のかけらを持っているとギャンブルに勝つというジンクスが言われるようになり、お墓の前に、削り取り専用の「お前立ち」の石がたっています。

ご利益を得たい人は、こちらの石を削ってくださいね。



鼠小僧のお墓。
鼠小僧については、「大江戸広辞苑」の「ぬすつとの大スター」も読んでみて。

■やっと一服。赤穂義士休息の地

回向院からは、隅田川沿いの道(といっても川は見えない、川が一番近い道)を、どんどん南下しましょう。

途中、右手に「松尾芭蕉記念館」があり、その先の、万年橋の手前の道を入ったところには、芭蕉庵跡もあります。芭蕉さんは、ここから「奥の細道」の旅に出かけたんですって。芭蕉稲荷神社の鳥居の奥に石碑が建っていて、芭蕉さんが神様になっていたのにはビックリ。

さて、さらに川に沿ってどんどん南下すると、永代橋。その手前の乳熊(ちくま)ビルの前に「赤穂義士休息の地」という石碑が建っています。

赤穂浪士の1人、大高源吾の俳句の友であった「ちくま味噌」の初代が、ここで一行に甘酒粥をふるまったのだとか。

大高源吾が看板を書き置いていったことで、ちくま味噌は、それからしばらく江戸の一大名所となって、江戸っ子観光客が押しかけたそうですよ。



(左画像) 芭蕉庵跡。赤い鳥居が目印です。
(右画像) ビルの前にひっそりとある記念碑。ここで飲んだ甘酒、きっと浪士たちの体も心も温めたんでしょうね。

■浅野内匠頭邸跡

永代橋を渡った赤穂浪士は、霊岸島を抜けて鉄砲洲に入ります。鉄砲洲は、現在の中央区湊・明石町あたりで、一行は聖路加看護大学の西側の道を築地市場の方に歩いたようです。その聖路加看護大の敷地の角に、「浅野内匠頭屋敷跡」の石碑が建っています。

浅野家の屋敷は、当時約9千坪あったといえますから、聖路加病院もお屋敷の跡。

「松の廊下」事件後、3日目には引渡し申し渡されていますが、家臣はすぐさま畳の数から障子の数まで詳細に記した帳簿をすばやく見事に作って引き継ぎ、立ち退いたそうです。

こんなことも、赤穂浪士人気、のちの忠臣蔵人気につながったんですね。飛ぶ鳥あつと濁さずの見本です。



浅野内匠頭邸跡碑。

この一帯は見どころが多く、聖路加看護大の正門前には「慶應義塾発祥の地碑」や、「蘭学事始の碑」があり、その裏手の公園には「シーボルト胸像」も。

慶應義塾のほか、明治学院大、工学院大も、この界隈が発祥の地です。

■四十六士（！）が眠る、泉岳寺

赤穂浪士の隊列は、鉄砲洲から築地方向に歩き、西本願寺（現在の築地本願寺）で右折し、今の新橋駅の手前で東海道（現在の第一京浜）に入って泉岳寺へと到着します。

泉岳寺は、徳川家康が外桜田に創建し、寛永の大火後に毛利、浅野、朽木、水野、水谷の五大名の尽力でこの地に移転、以後2万坪を超える寺域を有した名刹です。とはいえ、やはり観光客がめざすのは四十七士の墓。墓石は討入り後に浪士がお預けになった大名家ごとにまとまっていて、細川家が17、毛利家と松平家がそれぞれ10、水野家が9の合計46基。ところが、墓石のような石塔がほかに二つあり、「寺坂吉衛門」と「刃道喜劔（にんどうきけん）」の文字が刻まれています。

寺坂吉衛門は、討入りの結果を後世に伝えるために討入り後に“消えた”とされる人物。本当の墓は別のところにあるので、ここにあるのは供養塔です。

また、刃道喜劔の石塔は、父親が敵討ちを許さず他家へ養子に出そうとしたため板ばさみになって自殺した萱野(かやの)三平の供養塔だろうといわれています。

というわけで、泉岳寺にある墓は、四十六士のもの。主君・浅野長矩の墓の脇で、1日中、参拝者がたむけたお線香の香りに包まれています。



（左画像）泉岳寺。都営浅草線、泉岳寺駅から徒歩3分。

（中央画像）浅野長矩の墓。

（右画像）赤穂浪士の墓。討入り300年を記念して、墓所が整備され、赤穂義士記念館もオープン。

お参りしやすくなりました。

■芥川龍之介

芥川龍之介は明治25年3月1日に、入船町一番地（現在の中央区明石町）で新原敬三、フク夫妻の長男として生まれました。それを記した「芥川龍之介生誕地」碑があるのが、なんと「浅野内匠頭邸跡」の石碑の横。ビックリします。

ところが、ビックリは、これだけじゃありません。龍之介を生んだあと、フクは精神を病み、赤ん坊の龍之介はフクの実家である芥川家に引き取られます。

そして、すくすくと育った場所が、本所区小泉町15番地（現在の墨田区両国3丁目22）。京葉道路をはさんで回向院の向かい側、歩道橋の近くに「芥川龍之介生育の地」の記念柱が立っています。

龍之介はこの場所から、江東尋常高等小学校（現在の両国小学校）の附属幼稚園、江東小学校に通ったのです。いま両国小学校に行くと、道から見える場所に『杜子春』の一節を刻んだ文学碑もあります。そして、両国小学校から西に1分歩けば、吉良邸！というわけで、忠臣蔵散歩をしていると芥川龍之介に出会い、文学散歩をしていると忠臣蔵に出会う。このコースは、そんなオマケもある素敵な散歩道なんですよ。



芥川龍之介誕生地碑。

隣りに、浅野内匠頭邸跡の石碑が並んでいます。

【老舗散歩も楽しんでね】



- | | | |
|---------|--------------|----------------|
| ・ちくま味噌 | 江東区佐賀 1-1-15 | ☎ 03-3641-3310 |
| ・梅花亭 | 中央区新川 2-1-4 | ☎ 03-3551-4660 |
| ・大野屋總本店 | 中央区新富 2-2-1 | ☎ 03-3551-0896 |
| ・新橋 玉木屋 | 中央区新橋 1-8-5 | ☎ 03-3571-2474 |
| ・秋色庵大坂家 | 港区三田 3-1-9 | ☎ 03-3451-7465 |